

2022 年 3 月 11 日
ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

【J ブルークレジット証書交付式開催のお知らせ】

～ブルーカーボン・クレジットの認証・発行・取引について～

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合【JBE】¹は、2022 年 3 月 18 日（金）10 時より、「J ブルークレジット」証書交付式を開催いたします。

JBE は、ブルーカーボン生態系の CO₂ 吸収量を対象としたカーボン・オフセット制度の試行を国土交通省港湾局と連携して実施し、2021 年度に続き今年度も「J ブルークレジット」を発行しました。今回のクレジットは、

- (1) 多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動
- (2) 大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港
- (3) 兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり
- (4) J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置した ブロックによる藻場造成プロジェクト

の 4 件のプロジェクトにより創出されたブルーカーボンを対象としたものです。クレジットは、JBE が運営事務局となり、独立した第三者委員会による審査・検証を経て、JBE が認証・発行しました。また (1) ～ (3) の各プロジェクトで認証、発行したクレジットは JBE が購入申込者を公募し、購入者を決定しました。

証書交付式では、「J ブルークレジット」発行証書および「J ブルークレジット」購入証書を手交するとともに、NPO・市民団体等（クレジット創出者）及び企業（クレジット購入者）より、取組紹介、今後の展開への期待等をご紹介いただきます。また交付式では、当組合が実施した公募により譲渡したクレジットの税抜購入総額を公表する予定です。その後、報道関係者によるご質問等を受ける予定です。

今回の認証交付式は新型コロナウイルス感染症対策のため、ハイブリッド型（対面と WEB の併用）での開催となります。来場でのご参加は人数に限りがありますので、取材を希望される方は WEB 取材となる場合もありますので予めご了承下さい。詳細は、下記のお問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

【開催日時】2022 年 3 月 18 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

【報道受付】9 時 30 分～

【会場】笹川平和財団ビル 11 階国際会議場（東京都港区虎ノ門 1-15-16）とオンライン（Zoom Webinar 使用予定）のハイブリッド型

【お問合せ先】ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 pr@jbe.blueeconomy.jp

◆ジャパンプルーエコノミー技術研究組合のホームページ

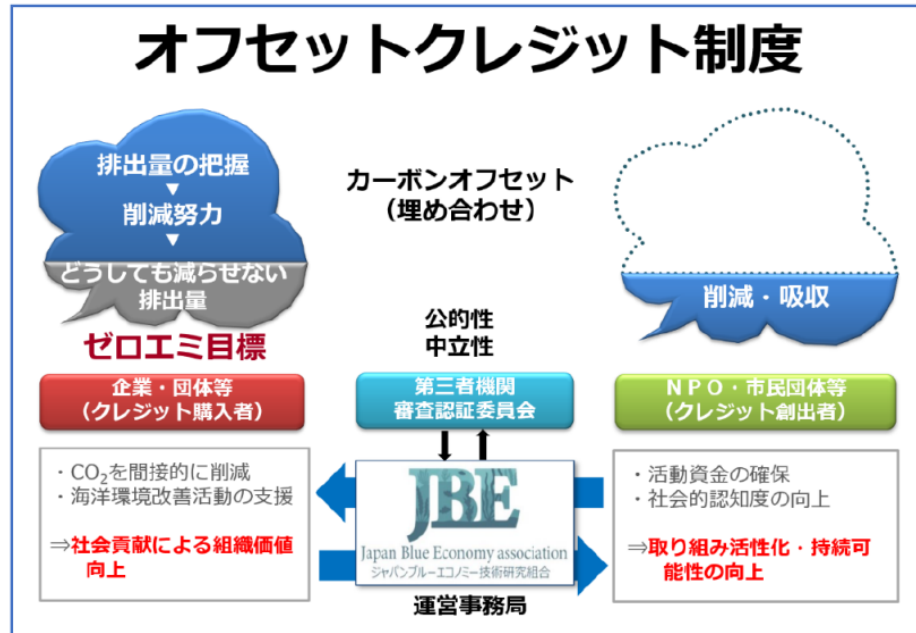
<https://www.blueeconomy.jp>

¹ 技術研究組合法に基づき、2020 年 7 月 14 日に国土交通大臣の設立認可を受け、翌 15 日に設立された認可法人である。国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所（東京都三鷹市 理事長 栗山善昭）、笹川平和財団（東京都港区 理事長 角南篤）、他個人が組合員として参加する。



Japan Blue Economy association
ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

【別添資料】



オフセットクレジット制度の概要（図1）

多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動

横浜市漁業協同組合、NPO海辺つくり研究会、金沢八景―東京湾アマモ場再生会議

◆ プロジェクトの概要

国や自治体、市民団体、学校、漁業者、企業など多様な主体が連携して取り組む「東京湾UMIプロジェクト」

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kvoku/59engan/umipro/umipro.htm>

平成25年度からアマモ場の再生に取り組み、横浜ベイサイドマリナー横の浅場で10haを超えるアマモ場が再生され、多様な生きものを育む豊かな海辺となりました。また、平成22～24年度の関東地整の藻場造成実験により形成されたアカモク場を、横浜市漁協が種苗の供給を行うなど持続可能な形で、横浜の新たな産品にしています。

◆ プロジェクトの特徴・PRポイント

豊かな東京湾を取り戻すためのアマモ場再生活動や持続可能な漁業は、「生物多様性の向上」「生物資源の増大」「地域コミュニティの再生」に加えて、ブルーカーボンの拡大により「地球温暖化の抑制」にも貢献します。

<http://www.amamo.org/>（金沢八景―東京湾アマモ場再生会議Webサイト）

令和2年度に「ブルークレジット」で得た資金は、東京湾内のアマモ場再生に活用するアマモの種子や苗の生産、ベイサイドマリナーでの見守り活動、金沢八景付近での再生活動などに活用しています。

◆ 海辺の藻場や干潟などが有する多様な価値

アマモ場やアカモク場などの藻場や干潟などの生態系が持つ多様な価値は、私たちの暮らしを支えています。

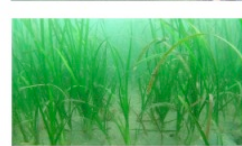
ある試算によると、横浜ベイサイドマリナー横の藻場は以下のような価値を持っていることがわかっています。

食料供給	メバシなどの魚介類の漁獲が年間745kg増加
水質浄化	海の生物によるCODの浄化量が年間1.2トン増加
種の保全	この海域で生息する海生生物が28種類増加



アマモ場に群れるメバシ

専門家による経済価値の解析では、年間約1800万円に相当すると評価されました。



今回のブルーカーボン・オフセット制度試行対象となった

「多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」の概要（図2）

プロジェクト名：大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクトin徳山下松港

プロジェクトの概要

- 大島干潟は、徳山下松港内の浚渫土砂を活用し造成された約29haの人工干潟（平成29年度完成）です。干潟の造成後より、アマモ場・コアマモ場が新たに形成されてきており、現在までに、多様な生態系が構築されてきています。
- 平成29年11月、大島地区住民と山口県漁業協同組合周南統括支店に所属する漁業者の参加・協働により貴重な地域資源である干潟を活用した地域の活性化を目指して「大島干潟を育てる会」（以下、育てる会）を設立し、現在は、育てる会を中心とした保全活動を行っています。
- 育てる会は、アサリ資源の保全や増殖活動、同干潟内のアマモ場・コアマモ場の保全のほか、国・周南市が連携して毎年実施する環境学習活動の支援を行っています。山口県漁業協同組合周南統括支店は、漁業権が設定されている干潟を含む海域での活動について、運営委員会に諮り許可するとともに、モニタリング時の備船、活動への助言・協力等を行っています。周南市は、干潟の管理者として育てる会の活動を支援し、育てる会の保全活動に参加しているほか、ドローンや船舶によるアマモ場やコアマモ場のモニタリングを実施しています。
- これら3者が連携協働して実施している大島干潟での活動は、今後の継続的な活動により多様な生態系の維持及び拡大につながっていくことが期待されています。

プロジェクトの特徴・PRポイント

- 大島干潟での保全活動を通じて、ブルーカーボン生態系の維持・拡大が行われており、生物多様性の向上や地球温暖化の抑制にも貢献しています。
- 地域資源である大島干潟は、保全活動の拡大による地域の活性化や水産振興を目指しており、ブルーカーボン・オフセット制度を活用して、ここから多くの人々がつながることによって、さらなる保全活動の活性化及び持続化、またカーボンニュートラルへの貢献を推進していきます。



育てる会による活動



環境学習の実施



今回のブルーカーボン・オフセット制度試行対象となった

「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」の概要（図3）

プロジェクト名:兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

・プロジェクトの概要

兵庫県神戸市兵庫区に位置する兵庫運河について、水質浄化や藻場の造成、周辺環境美化活動について取り組んでいます。貯木場跡地付近にて、近畿地方整備局・神戸市のそれぞれで造成された2つの干潟での活動について、今回申請を行います。

- あつまれ生き物の浜
- きらきらビーチ

■ 対象

アオサ・ジュズモ・アマモ・干潟

■ 申請者

兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会
 神戸市立浜山小学校、兵庫・水辺ネットワーク



兵庫運河の位置



兵庫運河



小学生への干潟お披露目会



アマモの繁茂

・プロジェクトの特徴・PRポイント

- 第五防波堤撤去工事からの発生材(石材、土砂)を流用して、兵庫運河に干潟(あつまれ生き物の浜)を創出しました。
- 磯場・砂場・タイドプールなど、小学生からの意見を取り入れて造成し、環境学習の場として利用されています。愛称「あつまれ生き物の浜」も小学生によって名付けられました。
- 干潟へのアマモの播種や移植などの活動を行っています。
- 漁業関係者や大学生が協力し、干潟の有する水質浄化やCO2固定能力の調査も行っています。

今回のブルーカーボン・オフセット制度試行対象となった
 「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」の概要(図4)

プロジェクト名: J-POWER若松総合事業所の周辺護岸に設置した 石炭灰重量モルタルブロック等による藻場造成プロジェクト

◆プロジェクトの概要

J-POWERでは、平成30年度から石炭灰と銅スラグを主原料としたコンクリート代替材料(石炭灰重量モルタル)を用いた藻場造成効果の高い素材開発に取り組んでおり、設置したブロックには藻場造成実験をとおして藻類が活発に繁茂することを確認できています。

上記の素材を用いたブロック設置区域を含め、若松総合事業所(北九州)の周辺護岸全体のブロック設置面積は6.4haにおよび、ここにはアラメ、ツルアラメ、ホンダワラが繁茂し海域環境と共生した生物場を作り出しています。

◆プロジェクトの特徴・PRポイント

従来の土木構造物は構造機能の実現に重きを置き構築されてきました。開発中のコンクリート代替材は密度を重くするというグレーンインフラ機能の増加だけでなく、藻場造成効果に優れた構築物(グリーンインフラ)とすることもできる、いわゆるグリーン・グレイハイブリッドインフラを実現することを目指した取り組みとなっています。



今回のブルーカーボン・オフセット制度試行対象となった、

「J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置した ブロックによる藻場造成プロジェクト」の概要(図5)